

令和6(2024年度) 公民科 教育指導計画

(1) 科目の配当・分担表

(必修 ◎, 選択必修 ○, 選択 △) (講師:*)

学 年	科 目 名	必修・選択	単位数	クラス数	時数	担当者名
I	公共	◎	2	4	8	斎藤 大樹
III	倫理	○	3	2	6	斎藤 大樹

(2) 「公共」指導計画表

科目名: 公 共	学年: 第1学年	単位: 2単位	担当者名: 斎藤 大樹
<p>1. 指導目標</p> <p>① 「自由」や「平等」などの抽象的な概念を、資料の読解をもとに正確に理解させる。</p> <p>② 抽象的な概念を、事実に対する正確な理解に基づき、現実の社会的な事象と結び付けて考察できるようにする。</p> <p>③ 現実の社会で起こっているできごとを他人事ではなく、自分自身の問題として捉えられるようにする。</p> <p>2. 評価の観点</p> <p>① 政治経済に関わる抽象的な概念、用語やできごとについて、資料の読解に基づき、正確に理解できているか。</p> <p>② 概念と事実を結び付けて考察し、自分自身の考えを論理的に表現することができているか。</p> <p>③ 社会的な問題を、自分との関わりにおいてとらえ、当事者性を持って主体的に捉えられているか。</p> <p>3. 授業方法 議論・グループワーク・講義</p> <p>4. 評価の方法</p> <p>【知識・技能】 定期考査を利用して、知識の習得と資料の読解についての技能を評価する。</p> <p>【思考・判断・表現】 定期考査の論述問題や課題において、概念と事実を結び付けて正確に理解し、それを論理的に表現できているかどうかを評価する。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 課題提出において、社会的な問題を自らの問題として主体的に捉えられているかどうかを評価する。</p>		<p>5. 年間計画</p> <p><1学期> 「自由」・「平等」とは何か?</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会契約説と立憲主義 2. 自由権と社会権 3. 日本国憲法における自由権 4. 人権の衝突と公共の福祉 5. 法の下での平等と社会権 <p><2学期> 「自由」と「平等」をめぐる問題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 市場メカニズムと自由放任主義 2. 有効需要の原理 3. 政府はどこまで経済に介入すべきか? 4. 社会保障と労働問題 5. 自由と平等はどのように両立できるか? <p><3学期> 国際平和はどのように実現できるか?</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際社会の成立と勢力均衡政策 2. 集団安全保障と国際連合 3. 比較生産費説とその問題点 4. 自由貿易と保護貿易 	
<p>(使用教科書)</p> <p>詳述公共 実教出版</p> <p>(副教材・テキストなど)</p> <p>最新 公共資料集2024 第一学習社</p>			

(2)「倫理」 指導計画表

科目名： 倫 理	学年：第3学年	単位：2単位	担当者名： 齋藤 大樹
<p>1. 指導目標</p> <p>① 現代人が持つ価値観やものの見方の基礎に、古代に生きた先哲による思索が存在していることを実感させる。</p> <p>② 先哲の思想に基づき、自分たちの日常生活で起こっている問題について思考し、自らの考えを先哲の思想に基づいて表す力を養う。</p> <p>③ 「学ぶ」ことの意味と「学び方」を学ぶ。</p> <p>2. 評価の観点</p> <p>① 先哲の思想を、彼らの論理・思索に基づいて、正確に理解することができたか。</p> <p>② 先哲の思想について、自らの身近な事柄と結び付けて考えることができたか。</p> <p>③ 学んだことを、現代の諸問題を考えるための土台とできたか。またその土台に基づき、根拠を持って自らの考えを表現することができたか。</p> <p>3. 授業方法</p> <p>討論や資料の読解を含む講義を中心とする。</p> <p>4. 評価の方法</p> <p>【知識・技能】 定期考査を利用して、知識の習得と資料の読解についての技能を評価する。</p> <p>【思考・判断・表現】 定期考査の論述問題や課題において、先哲の思想と日常生活で起こる問題を結び付けて正確に理解し、それを論理的に表現できているかどうかを評価する。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 課題提出において、社会的な問題を自らの問題として主体的に捉えられているかどうかを評価する。</p>	<p>5. 年間計画</p> <p><1学期></p> <p>1 思想の源流</p> <p> i ギリシア哲学</p> <p> ii 諸子百家の思想</p> <p>2 宗教と人間</p> <p> i ユダヤ教・キリスト教の思想</p> <p> ii イスラームの思想</p> <p> iii インド思想と仏教</p> <p>3 日本の思想</p> <p> i 日本の風土と思想</p> <p> ii 仏教の受容と展開</p> <p> iii 儒学と日本近世思想</p> <p> iv 西洋思想と日本近代思想</p> <p><2学期></p> <p>4 近代の人間の誕生</p> <p> i 近代人の誕生ールネサンス・宗教改革ー</p> <p> ii モラリストたち</p> <p> iii 経験論と合理論</p> <p>5 民主社会の形成と人間のあり方</p> <p> i カントの認識論・道徳論</p> <p> ii ドイツ観念論</p> <p>6 個人の主体性と自由・幸福</p> <p> i 功利主義と資本主義社会</p> <p> ii 実存主義</p> <p> iii プラグマティズムと実証主義</p> <p> iv 社会主義とヒューマニズム</p> <p><3学期></p> <p>7 現代思想の展開</p> <p> i ポストモダンの思想</p> <p> ii 自由と正義</p>		
<p>(使用教科書)</p> <p>改訂版 倫理 清水書院</p> <p>(副教材・テキストなど)</p> <p>最新版 倫理 資料集 清水書院</p>	<p>※生命倫理等の「現代の諸課題」については、課題提出で対応する。</p>		